

学園だより

発行 学校法人
 ノートルダム清心学園
 清心中学校
 清心女子高等学校
 倉敷市二子1200
 ☎701-0195
 TEL(086)462-1661
 FAX(086)463-0223
 URL <http://www.nd-seishin.ac.jp>

編集 広報部

自分の心を磨く時

校長 Sr. 小谷 恭子

心を洗われるような新緑が、日に日に色濃くなり、早くも初夏を思わせる日々が続くようになりました。保護者の皆様には、年度初めの行事を終えて、日々の活動に生き生きと取り組んでいるお子様の姿を期待をもって見守っておられることと思います。学校では、今年度も新たな取り組みを試み、日々移り変わる社会の中で自己実現を目指す生徒たちを応援したいと考えています。



入学式で挨拶をする新中1の代表生徒

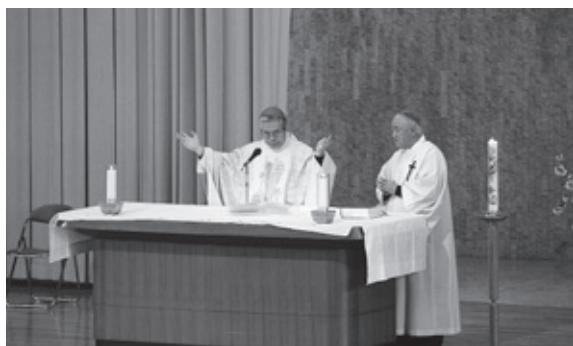
本校は、長年にわたり、英語教育に力を注いできました。中学校では、英語の時間をNEELP、SEELPに分け、個々の学習状況に応じて英語をより充実して学ぶことができる機会を作り、その成果も定着してきました。この制度は、高等学校に継続され、高校のNEELP生の英語のレベルは、年々向上しています。この度、高等学校において、より日常的に英語に触れ、自然な形で、また、より多くの生徒が英語に対する興味と関心を高めることができるよう、Nativeの教員が、高校1年生の1クラスを担当として受

け持つことにしました。英語や英会話の授業以外に、クラス経営、伝達業務、日頃のやり取りなど英語で行い、日々の学校生活を通して英語を身につける機会が増えることを願うことです。

日本企業の海外進出、文化、芸術の幅広い国際交流、多国籍企業の増大など、日本社会は、ますます多様化し、また、日々のニュースをはじめ、毎日の生活を通して、私たちは、世界のあらゆる国と連携していることを実感しています。高等学校という社会へ直接つなが

るこの時期に、この試みが、大学進学においてもより多くの可能性を選択できる準備の一つとなることを願っています。

今年度、「挨拶をしよう」を学校の目標としています。どんな時でも人と出会う時、その時に合わせた挨拶ができるようになることを目指しています。家族の中で、近所の人に出会う時、誰とでも挨拶ができるよう、ご家庭でも励まして下さいませよう、お願いいたします。



学年初めのミサの司式は、前田新司教様でした

新入生の皆さんは清心学園に慣れてきた頃だと思います。この充実した学園生活をこれからの過ごしていくことができるように心からお祈り申し上げます。

今年の文化祭のテーマを、十代の私たちが主役になるという意味を込めて「teenage dream」にし、高1のテーマは「hope」、高2のテーマは「dream」としました。皆が協力し、クラス一丸となって素晴らしいものを作り上げていきましょう。私たちと一緒に頑張ってくださいませよう。



高校生徒会長 鶴見 莉子



中学生徒会長 藤田 彩乃

生徒会長さんへ

中学生徒会は、昨年10月より活動を始め、東日本大震災支援物資の募集、二子地区敬老会の運営などの活動をしてきました。東日本大震災支援物資はみなさんのご協力により、現在までに6箱の支援物資を送ることができました。今後この活動を続けていきますので、ご協力よろしくお願ひします。

また、9月の文化祭に向けて準備を進めています。私たち生徒会にとっては任期中最後の大きな行事なので、みなさんに楽しんでもらえるよう精一杯頑張ります。

中1学年主任 松本 浩和

4月20日(金)から2泊3日の日程で玉野スポーツセンターにて新人生オリエンテーションが行われました。出発時は雨でしたが、到着後は天候も回復し2日目のハイキングでは満開のやまつつじが咲き誇る深山公園を満喫することができました。

キャンドルサービスでは、校長先生から教えていただいた学園の歴史や精神をもとに、各班がそれぞれ清心での学校生活で守るべき「誓いの言葉」を考え、美しきその光の中で披露しました。本番に向けて声をそろえて懸命に練習する姿がどの班からも見られ、清心生としての自覚が芽生えるとともに、友人との絆が深まってきた様子を感じることができました。

ここで立てた誓いの言葉は今も教室に飾ってあります。常に心に留め、学校での様々な場面で実践してくれることを願っています。



本物のローソクを使い、気持ちを1つに！

ボルネオ研修

K2E 小嶋 由加里

ボルネオ研修は私にとってとても有意義な時間であり、忘れられない一生の思い出です。

国立サバ大学では、学生と交流したり、ボルネオの動植物などについての講義を受けました。全てが英語だったので、最初は聞き取るのが大変で不安でしたが、次第に慣れていきました。母国語ではないはずの英語を使いこなしている姿を見て、国際社会では英語が大切だと改めて感じました。

また、クルージングではテングザルやオナガザルに出会うことができ、その行動は興味深いものでした。特に、木から木へと飛び移るジャンプは見ごたえがありました。夜には、たくさんのホテルが木にとまっていてクリスマスマツリーの電飾のようにとても幻想的な場面も目にしました。

特に印象に残っているのはシユ



日本にはない植物との出会い！！

高2発展科目紹介

発展科目主任 能勢 奈那

文理コースでは7つの講座の中から自分の興味・関心に基づいて学びのテーマを選び、主体的に学習する発展科目を実践しています。

川崎医療福祉大学との連携講座「知って、役立つ『マネジメント』」では医療福祉マネジメントの役割を学び、清心女子大学との連携講座「女性」では、女性に関する様々な問題を多角的に考察します。どちらの講座もプレゼンテーションを行い、自分の考えを伝える力を習得します。さらに、実践的な英語を学習し、清心女子大学の設備を利用して更なる



東南アジア独特の水上住宅

社会実習の森

校長補佐 山内 宏之

本校のSSH事業では、国際的な視野と語学力の育成をめざしたカリキュラム開発を積み重ねてい

ていきたいと考えています。本日のSSH事業では、国際的な視野と語学力の育成をめざしたカリキュラム開発を積み重ねてい

本校がSSHに再指定された平成23年度から27年度までを対象とした第四期科学技術基本計画では、今後の科学技術政策の基本方針の一つとして「社会における科学と社会のための科学」という考え方が示されています。その中で、震災後の日本で科学技術の発展と社会との関わりを再構築していくために、女性の科学技術分野での活躍促進と参画拡大を推進することが必要であると指摘されています。変革期を迎えた日本の社会において、SSHとしての女子教育に求められて

専門進学支援プログラム

プログラム主任 山田 直史

英語力の向上を図る「高大連携ハイレベル英語講座」も開講しています。また、岡山大学農学部との連携講座「物質科学課題研究」では新エネルギーの研究などに取り組み、「数理科学課題研究」では岡山大学理学部と連携して自然現象の法則を模索する研究を進めています。どちらも3月に学会で発表を行います。

他にも、障がい者の方と触れ合う「実践ボランティア」、グループ発表などを通して中国語を学ぶ「中国語I」を開講しています。

どの講座においても生徒は積極的に取り組み、自身のテーマを設定し、向上心を持って学習しています。課題研究や発展科目への取り組みを通して、生徒たちが学ぶ楽しさを実感することを期待しています。

3年目となった平成24年度は、「自主学習の強化」を指導の柱として学習支援を進めていきます。志望校合格に向けての大切な要素は、自分の現在地とゴールを見据えた上での「時間」の感覚です。早い時期から受験を意識した+aの自主学習を行うことで、無理のない確実な学力の向上が狙えます。プログラムとしては、学習面談による教材選びのアドバイスや、通信「Dreams Come True」による、自主学習の質の向上を応援していきます。正しい自主学習を実践していきましょう。

本校のSSHに再指定された平成23年度から27年度までを対象とした第四期科学技術基本計画では、今後の科学技術政策の基本方針の一つとして「社会における科学と社会のための科学」という考え方が示されています。その中で、震災後の日本で科学技術の発展と社会との関わりを再構築していくために、女性の科学技術分野での活躍促進と参画拡大を推進することが必要であると指摘されています。変革期を迎えた日本の社会において、SSHとしての女子教育に求められて

聖ジュリーの目 各学年活動報告

中1学年主任 松本 浩和

中1は「聖ジュリーを知ろう」をテーマに活動しました。前日に聖堂でシスター小田からお聞きした聖ジュリーのお話をもとに、当日は彼女の生涯を十五の場面に分けて紙芝居を作成し、各クラスで発表しました。

また、チャイルド・ファンド・ジャパンの方をお招きして、活動の様子や私たちが支援している子どもたちの現状をうかがいました。

この活動を通して、他者のために生きた聖ジュリーの精神を生徒が学び取り、小さなことからでも実践に移してくれることを願っています。

中2学年主任 森 茂樹

中2は、障害者支援施設「ひらた旭川荘」を訪れました。

計画・準備・リハーサルなど、すべて生徒達が企画しました。午前中は、草取りなどの奉仕活動を施設の方と一緒にさせていただき、午後は、交流会では、ゲームや踊りを楽しみました。有志の生徒がステージで唄って踊って、会場全体が笑顔であふれました。

聖ジュリーの奉仕の精神を学び、社会の中の弱い立場の人のことを知り、勇気を持って行動できる女性に成長できることを願っています。



中2 奉仕の精神を学ぶ生徒



高1 手話体験を講師の方と共に

中3学年主任 加村 佳子

午前中は、ガイドヘルプと車椅子講座をしていただき、どちらも実際に生徒たちが体験をしました。介助の方法、車椅子の使い方、の難しさを実感したようです。

午後は、人工呼吸器をつけて生活していらっしゃる二人のお子様のお母様、井桁陽子さんの講演を聴かせていただきました。今現在は、「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちでいっぱいだったと言われ、生徒たちは感動していました。

今日の行事をこれから社会生活にも活かして欲しいと願います。

高1学年主任 田中 美江

高1は午前中、チャイルド・ファンド・ジャパンより講師をお招きして活動内容や現地の状況を伺い、毎月私たちが行っている里子への支援という小さな活動が社会に貢献していることを知る良い機会となりました。その後、聖ジュリーのお言葉の日めぐりカレンダーを作成しました。午後の手話体験では講師の方々の体験談を熱心に聞き、読話や手話での挨拶、自己紹介など学びました。聖ジュリーの精神に触れ、大変有意義な行事となりました。

高2学年主任 佐藤 誠

高校2年生は、クラスごとに障がい者支援施設や特別養護老人ホームを訪問し、各グループに分かれて交流会や介助・清掃などの奉仕活動をさせていただきました。

最初は、遠慮がちに活動をしていましたが、徐々に利用者の方々や打ちとけ、積極的にコミュニケーションをとる姿が最後には多く見られました。

今回の活動が、自分がどのように社会的な貢献ができるかを、考えていくきっかけになってくれればと思います。

高3学年主任 石井 美香

午前中はAMDAより2名の方を講師としてお招きました。

「AMDAとは」というところから始まり、その活動内容、特に「東日本大震災復興支援活動」についてお話ししていただきました。

午後は知的障がい者教育に半生を捧げた石井筆子さんを描いた映画「筆子 その愛と天使のピアノ」を鑑賞しました。

今日学んだことを活かし、感謝と奉仕の心を持ち、社会に貢献できる女性として活躍していただけることを願っています。



ネイティブの先生から指示を受ける生徒

中2英会話合宿

学年英語科 山本 和美

7月の中学3年生対象オーストラリア海外研修に向け、本校クラブホールにて希望者33名が3月に2泊3日で英会話合宿を行いました。本校のネイティブ教員4名の指導のもと、起床から就寝まで英語を用いて生活をするとともに、4つのグループに分かれ、オーストラリアの言葉や文化を学んだり、オリンピックと称し様々なゲームを楽しんだりしました。そして最終日には、各グループで3日間にわたり準備した、日本を紹介するプレゼンテーションをしました。

初めての体験に戸惑いを見せながらも、どの参加者も友人と協力し合い楽しく活動に参加する姿が見られました。夏のオーストラリア研修でも積極的に英語でコミュニケーションを図り、素晴らしい体験をしてくれることを期待しています。

